

基調講演

「日本の近代国家に寄与した儒教・東洋実践哲学(陽明学)の系譜と日本的経営との関わり  
～KAEの原理とその実践～」

日本マネジメント学会／経営理念研究部会・経営革新研究部会 山本 毅

何故このテーマにしたのか？問題意識による問題提起

本学会のアイデンティティは創設者、故・山城章(一橋大学)教授の実学一体の実践経営学でありKAEの原理を根幹とした実践を意味する。又、故・藤芳誠一(明治大学)教授の「蛻変の経営」はイノベーション革新による実践経営学である。報告者を含め、戦後70数年、昭和、平成を経て、令和を迎えた今日奇しくも昨年は、明治近代国家生誕150年でもあった。21世紀グローバル世界の中で令和では、日本民族の文化伝統の中から新機軸を導き出したいとの思いから本テーマを取り上げた。今後の学問研究のヒントにでもしていただければ幸いです。

A 西洋哲学と東洋思想哲学

時代の変遷と併せ、日本における儒教(儒学)の位置づけ(配布資料…図表、図式参照)

1. 儒学とは？

- ・孔子、孟子の教えを朱子が学問的に体系づけ朱子学とした。
- ・朱子学を学んだ王陽明が400年後に陽明学を誕生せしめた。
- ・経世済民の学…政治経済の学問である。
- ・朱子学は奈良・平安時代、隋・唐に留学した僧たちが帰朝時に持ち込むが正式に学問として定着したのは、織豊政権の末期、朝鮮隋一の儒学者姜汎から学んだ藤原惺窩から始まる。徳川家康の最高顧問、林羅山は惺窩の一番弟子である。
- ・古典「大学」…修身 齐家、治国、平天下
- ・朱子学と陽明学の学問的な分岐点は、大学にある「格物致知」の解釈を巡って対決した。(後述あり)
- ・日本に於いては、明治維新(西欧化の波)と第二次世界大戦の戦後(GHQ)、二度に亘って排斥された。

2. 朱子学と陽明学

(イ) 朱子学(道学ともいう)

- ・朱熹 南宋の時代1130年9月15日福建省生まれ。父・韋斎(詩人)は北宋の程子(明道・伊川の兄弟)の学統を継承
- ・程学の特徴は純理を重んじ功利を排し、大義を尊び俗習と妥協しないところであり、この精神が後に朱子学の骨核となる。
- ・君臣の義を中心に据える学問

・倫理学とは別に自然学を創出して近代科学の導入の素地を作った。

(ロ) 陽明学

・王陽明 明の時代 1471 年9月 30 日浙江生まれ。父・徳輝は進士にて官吏・読書人の家庭の中で育つが 13 才の時に母を亡くし悲嘆にくれる。生まれながらにして英明であった。朱子学を学びその真骨頂に触れようとしたが厳格な朱子学を学びながら、18 歳の頃自由な思索と体験を提唱する婁一斎(朱子学者達から批判される)の思想を知り、これを学ぶ。陽明の学問は一斎が発端になったといわれている。科挙に受かり、高級官吏として中央に勤務するが優秀すぎるため、妬まれ、35 歳の時地方官吏に配流されるものの配流先の竹藪の中で座して瞑目し、陽明学に開眼する。中央にいた頃には陸軍大臣、実践的戦略家(反乱軍の鎮圧)、政府閣僚の一員、文武両道の士が実学一体(理論=実践、知行合一)の実践哲学を誕生せしめた。

### 3. 朱子学と陽明学のキーワード…対比

(イ) 朱子学(理)…客観的観念論…知の概念

陰陽によって5行(火・水・木・金・土)と5徳(知・仁・義・礼・信)があるという。理路整然とした形で根本的な宇宙の最高の現象から基本的な思想として組み立てている。静的であり、カント的である。

(ロ) 陽明学(行)…主観的実践論…孝の概念

・孝・仁・義・礼・信

・理論や理屈が論理的に正しいとしても真実であるかどうかはわからない。

知行合一。動的でありヘーゲル的である。

(ハ) 朱子学

・理気二元論…対は常に運動している。

運動量が大の時、陽、小の時を陰と呼びこの2つが疑集して5行となり、様々な組み合わせで万物が生み出されている。したがって万物の存在は全て気によるものであって、そこに何らかの根本原理があり、その原理として理が存在するのであり。それを性即理という。

・格物論…格物致知

才物格物の道理…物には過程がありその道理を極めることにより、自分の知を極め、客観的な境地に達する。その境地に達して真に物を支配できる。(王陽明は実際に竹藪の中でやってみるが?)

・性即理と居敬窮理

人間には性=道徳的本性が内在する。性の流露が情であり、心はこの性と情を包み全てを司るが、時にそれを妨げるものが人間の醜さでこの情に由来する。したがって道理=人間を人間たらしめんとするものは性に於いて他にない。その道理に至るには各々の事物に内在する原理を窮め(居敬窮理)知を完成しなければならない。

・その道理に至る方法として「大学」の中の一句「格物致知」を朱子はこの様に解釈する。

知の概念、知を目的化するのである。

## (二) 陽明学

- 孝の概念…朱子の言うことが正しいとするならば、理と心の垂離が起こり道徳的本性が内在すると言っても、理には超越的なものが含まれよう。配流された知的極限状況の中で王陽明は自己を疎外する全てを否定しつつ、どうしても否定できない親を思う心、家族愛を根拠に良知＝心＝人間性は先天的に内在するものと考えた(孝の概念)。従って陽明学は親を思う心、孝を根底とする人間学なのである。
- 心即理
  - 陽明にとって学問とは自分の心を尽くすことを求める過程に他ならず、心を尽くす最大の要求は自らを満足させることに他ならず、他者(家族、ステークホルダーズ)と共に生きることをも意味する。このように陽明は心を性と情に分離することなく、性と情が一体となった心、肉体を備えた心、端的に言えば欲望を持った心が、そのまま道理であるとする心即理の原理を樹立したのである。
  - 陽明は人間1人1人をそれぞれの理と気を備えた小宇宙そのものであると見なした。生きている人間は密度の高い集合体であり、気の分散によって死を迎えるが、単なる気の集合体ではない。肉体はそうであるが人間は生まれた時から心を持っている心即理、心は即ち宇宙の本質である理に他ならない心を磨き、己の心を拠り所にして行動実践せよ。知っていながら行わないと言うことは、知らないことに等しい。徹底した唯心論であり、個人の内面の独立性と自由独立不帰を鼓舞した思想を確立したのである。開眼後、配流先の異族の人々と民族・文化・地位・立場・教養・その他一切の外的な関りを超え深い心のつながり、絆が生まれていたのである。
- 知行合一論(理論＝実践)…致良知
  - 「知は行の始めなり、行は知の成るなり」  
「知行は分かちて両事を作すべからず」…『伝習録』では、人間性の自ら展開として体験を重複した陽明は心が本来の働きに従って快しとするところを知る。その知について実際に工夫し力を発揮し、それを行為によって実現して初めて「致知」と言え、「致良知」に至る。
- 省察克治、事上練磨
  - そのための方法として上記2つを重要視する。人間はいろいろな欲を持っている。良知を発現するにはその欲を取り除かなければならない。したがって自らの心の在り方と併せ自らの心を内から鍛えなければならない…という。
- 万物一体の仁…志
  - 人間の内なる良知は天下万物をもって一体とみなす仁の心…。だから良知は自分ひとりの身に修めるだけでは好ましくない。天下万民の困苦窮状を見れば、その解決を考え何とかしなければという思い、志が求められる。真の天下泰平(治国平天下、修己治人)を求めるのであれば、社会的実践が必然に求められるのである。(幕末の志士達の実践行動)

#### 4. 陽明学が要請する実践行動の3つ

##### 1. 志…個人(人生の目的、目標)

組織(経営理念)

- ・志さなければ舵なき舟の如く くつわなき馬の如し…伝習録
- ・吉田松陰の志の教え…『留魂録』
- ・渋沢栄一の志の経営…『論語と算盤』、義利合一

##### 2. 意欲

- ・信念を実践する強烈な思い
- ・使命感、心の底から湧き上がる思い
- ・万物一体の仁に基づく社会的実践への思い

##### 3. 戦略・戦術

- ・個人の戦略・戦術、組織の経営戦略
- ・蘇秦、張儀の発揮した知謀も理人の知恵といささか変わりもない…  
陽明が陸軍大臣で一流の戦略家であったからか？
- ・陽明学は危機の哲学とも戦場で学ぶ実践学ともいわれ、現実的で生々しい。

日本では反体制思想と把える土壌が根強いが果たしてそうであろうか？

朱子学の完成から 400 年後に誕生した陽明学は日本に伝来し葉隠れの武士道と深く結びつき心と精神、経世済民の実践学として根付き、特に幕末から明治維新、日本の近代国家形成に大きく寄与したのである。

#### 5. 江戸～幕末～近代～現代

朱子学、陽明学を学び社会实践をした群像

- ・世界の四聖人(ブッダ、孔子、ソクラテス、カント) by 井上円了 Cf. イエス  
東洋→支那哲学…孔子(儒学) / 王陽明(学)  
→印度哲学…釈迦(仏教)  
西洋→古代哲学…ソクラテス(無知の知、内答法)  
→近世哲学…カント(批判哲学の完成)(大陸合理論とイギリス経験論)
- ・日本の5大思想家  
西田幾多郎、鈴木大拙、空海、山本常朝、二宮尊徳
- ・『代表的日本人』(内村鑑三)  
西郷隆盛、中江藤樹、日蓮、上杉鷹山、二宮尊徳
- ・戦前、日本文化を研究した外国人
  - ・『菊と刀』…USA…ルース・ベネディクト
  - ・『三種の神器』…ユダヤ系ドイツ人…クルト・ジンガー
  - ・『アメリカの鏡・日本』…USA…ヘレン・ミアーズ
- (a) 江戸時代  
藤原惺窩…弟子・林羅山、角倉了以、角倉素庵  
赤堀浪士…吉田忠左衛門、山鹿素行(大石蔵之助の節)  
大塩平八郎…義の為の社会浄化実践(知行合一)

中江藤樹…伊予大州藩士

(近代聖人)「身体髮膚、これを父母に受く。あえて毀傷せざるは孝のはじめなり」伝習録

孝経

37 才の時これを読み大感激。当時日本に入ってきた王陽明全集にて独学し陽明学者として出発する。

孝の実践…その実践は狂(武士を捨てる)

熊沢藩山(近代聖人の一番弟子)…備前岡山藩、藩政改革、閑谷学校

↓門下生

池田草庵…但馬聖人

丸橋忠弥…由比正雪の乱

(b)幕末

・川口雪蓬…西郷隆盛(敬天愛人)

・吉田松陰…陽明学左派の李卓吾に傾注

志の教え 孝の実践、至誠、士道は山鹿流、  
黒船渡航未遂、老中間部詮房襲撃未遂  
獄中の遺書『留魂録』

久坂玄瑞…禁門の変

高杉晋作…英国領事館焼打ち…東洋→狂生 奇兵隊創設

山形有朋…狂介、奇兵隊を日本陸軍へ

・宮部鼎蔵…熊本藩(池田屋事変、新選組襲撃)

・岩崎弥太郎…土佐藩、三菱財閥の創始者

・坂本龍馬…土佐藩、船中八策、薩長同盟→暗殺

・横井小楠…越前藩、明治を描いた男→暗殺

・元田永孚…熊本藩、実学党の流れ、明治天皇への進講、親政運動

本人の精神構造を強化する為に教育勅語の草案…明治天皇と作る。大國ロシアに勝てたのはこの教育のたまものか？

(c)幕末近代

・御茶の水、湯島聖堂…昌平校(林家の私塾・幕府の大学)

・学頭 佐藤一斎 師は中井竹山 言志四録

| 陽明学者 > 朱子学者

|

↓

門下生 朱子学 虎 佐久間象山 信州・松代藩(真田)

| 陽明学 龍 山田方谷 備中・松山藩(板倉)

|

| 藩校有終館 学頭

↓

↓

渡辺崋山

一番弟子(14 才の時)

川路聖謨

三島中州…二松学舎大学創設

横井小楠



門下生

※この系譜が重要！

日本の実践経営学は  
この流れを辿る！

乃木希典…明治天皇 侍講

渋沢栄一…日本資本主義の父

義利合一説

安岡正篤…昭和天皇 侍講

終戦の詔勅草案

#### ・皇室と陽明学

近・現代史の中で陽明学の流れは、明治天皇から昭和20年8月15日終戦まで教育勅語をベースとした日本国民の精神的支柱の思想であり、実践哲学であった。

#### ・皇室のしるし、三種の神器の意味と儒学 (by クルト・ジンガー)

剣…堅く、鋭く、素早い決着は英知の源泉

鏡…よくも悪くもありのままの姿を写すので、公平と正義の源泉

勾玉…目のような形、胎児のような形、英和・敬虔の源泉

三種の神器の持つ概念、それぞれを漢字一文字にすると、

潔、早、知、正、強、清、明、爽、澄、勇、凜、和、温

朱子学…仁、義、礼、知、信

陽明学…仁、義、礼、孝、信



#### ★山田方谷 (1805～1878)

- ・岡山県備中高梁の旧家に誕生。幼少期神童の誉れ高く隣の新見藩の高名な儒学者(朱子学)丸川松隠に5才の時師事。母への孝行息子として有名であった。丸山松隠は佐藤一斎と同門、大阪中井竹山の門下生。
- ・当初、朱子学の四書(大学、中庸、論語、孟子)五経(詩経、礼記、書経、春秋、易経)を学ぶが、14歳の時母を亡くし悲嘆にくれる。  
(中庸とは、節制、均衡、調和の儒教概念)
- ・23才の時儒教の神髄を探求するため、京都に遊学。寺島白鹿(朱子学)に師事。仏教、禅も学び、3回目の京都遊学時に初めて陽明学に触れる。同門には、吉田松陰、橋本佐内、春日潜庵、頼三樹三郎。
- ・26才の時備中松山藩の藩校有終館の会頭。その後私塾、牛麓社を開く。一番弟子が三島中州、14才の時である。
- ・30才の時昌平校にて佐藤一斎(陽明学)に師事。同門に朱子学の佐久間象山がいる。この二人は昌平校の龍虎と呼ばれていた。
- ・三島中州と山田方谷。越後長岡藩・河井継之助と山田方谷の師弟は特に強かった。
- ・三島中州は明治政府に仕え、二松学舎大学を創設。河井継之助は家老として長岡戦争で戦死する。方谷は継之助の家族を終生、援助するのである。

- ・備中松山藩譜代 5 万石藩主・板倉勝静から藩財政立て直しを命ぜられ、大蔵大臣家老職へ実高 1 万 9 千石、巨額借金 10 万両の状況から、貨幣経済の見直し、流通経済の活性化、節約、産業振興等々 3 年間で成功、以降 20 万両の実収、黒字財政となる。方谷の記した「理財論」は、日本初の財政学の本である。
- ・藩主勝静は松平定信の孫。最後の老中として徳川に忠誠し、函館五稜郭で戦い、方谷の元へ帰る。
- ・明治元年 1 月 14 日備前岡山藩家老・伊木若狭の率いる 3000 名の軍勢が備中松山を包囲するが、話し合いの結果、無血開城、方谷の命を受けた三島中州が交渉役となり、その任に当たる。もし、正規兵 500 名農民兵 1200 名と 3000 名が戦っていたら、岡山藩は大損害を被っていたと考えられる。最新の銃をもって訓練された農民兵は長州の奇兵隊のモデルとなった集団であった。
- ・69才の春閉校の閑谷学校を開校し陽明学を教える。
- ・新政府になり、伊藤博文、木戸孝允等が三島中州をはじめ、門下生に依頼、再三にわたって、新政府の大蔵大臣の要請をするが、これらを断り、静かに学問一筋の人生を過ごすのである。
- ・川田剛…山田方谷の門下生にして名漢文豪。東大教授。貴族院議員。宮中顧問官。

#### 師に贈る言葉

「藤樹道徳ありて功業なし。蕃山功豊かにして文控えめなり。一斎文を能くして而して徳と行は及ばず、先生(方谷のこと)三子(藤村、蕃山、一斎のこと)に於いて長を取り、短を裁って別に一家を成す。あに後世の偉器ならずや」

#### ★渋沢栄一(1840～1931)

埼玉県深谷の農・商家に誕生。幼少より読書家。徳川慶喜の弟昭武とパリ万博の為訪欧(慶応 3～明治元年)。一年間滞在。

#### 学んだこと

- ・事物を客観的に見直す合理主義
- ・官尊民卑のない社会(自由、平等、博愛)
- ・銀行、金融、商業、流通、有価証券、株式について学び、合本制、民間経済力の強さを知る。
- ・ベルギー国王が鉄鋼の売り込みを行っていたこと…鉄は国家なり  
富国強兵、殖産興業へ
- ・日本の商・工業の遅れを痛感する。

#### ・実業観について

- ・合本主義、官尊民卑批判
- ・道徳経済合一説(論語と算盤) 義利合一
- ・利他利己(仏教的)、自利他利
- ・仏教的価値基準…仁・義・礼・孝・知・信を媒介として合致させるには、論語的にも現実的にも無理があるにも拘らず、主張し続けた。

・これを理解してもらう為に社会政策学会、東京経済学会を設立。昭和6年92才で逝去するが、晩年はA.スミスの道徳情操論と道徳経済合一論の精神の根本は同一であると述べている。

・同年代(文政・天保)に誕生した人々

政治家… 西郷隆盛、岩倉具視、大久保利通、寺島宗則、木戸孝允、江藤新平、前原一誠、坂本龍馬、高杉晋作、松方正義、井上馨、榎本武揚、山県有朋、黒田清輝、伊藤博文

文化人・思想家… 吉田松陰、神田孝平、福沢諭吉、前島密、加藤弘之、成島柳北、田中正造、新島襄

経済人… 古河市兵衛、岩崎弥太郎、五代友厚、大倉喜八郎、安田善次郎

・渋沢栄一の師

・三島中州は先述の通り山田方谷の一番弟子であり陽明学者である。その実践哲学、知行合一は渋沢によって義利合一説となり、日本資本主義、明治近代国家形成に大きく貢献したのである。

★安岡正篤

・明治31年2月13日佐賀の武士の家に誕生。昭和58年86才没。大正5年一高に入学。

その後東大へ。在学中、王陽明研究に励み、少壮若手学者として注目を浴びる。それまでは、当時の青年らしくドイツ語、英語の原書を読みあさっていたが、ある日第一次世界大戦中であつた為か「欧米よりも問題は日本である。自分の国の運命を握るのは東洋だ。支那である。」との思いに至り、支那興亡史、中国の書物を学び、朱子学、陽明学を極める。

・その素養は5才の時から四書五経を過程で素読させられ、近所の神官から漢詩を学び、柳生藩の大参事であつた人物から個人的に陽明学の手ほどきを受けており、すでにその素地はあつたのであろう。

・20代に新進気鋭の陽明学者として学会の注目を浴びてから、戦前戦後を通じ日本の皇、政、財、官に深く影響を及ぼした大人物である。

・金鷄学院(松下村塾に例えられる)と日本農士学校(農村指導者の育成)を創立し、若いリーダー達に陽明学をベースとした人間学、帝王学、実践学を指導する。

・昭和20年8月15日 昭和天皇による玉音放送。終戦の詔勅は安岡正篤が中国の古典近思録の一節を抜粋し草案したものである。

近思録…朱子学の先駆者。大儒、張横渠による「天地の為に心を立て、生民の為に命を立て、往聖の為に絶学を継ぎ、万世の為に太平を開く」

呉王・夫差が父の仇の越王・句踐を討とうとして辛苦したことを臥薪嘗胆という。これを参考にした。※耐え難きを耐え、忍び難きを忍び…

・戦後…GHQより召喚され、D級戦犯として巣鴨プリズンへ…解放後は吉田首相から中曽根首相まで最高の政治顧問として、又、多くの戦界人に陽明学の実践経営哲学を指導した。



★西田幾多郎(キーワード:行為的直観、純粹経験、自覚、絶対的矛盾、自己同一)

明治3年(1870)5月石川県河北郡庄屋の家系に生まれる。昭和45年(1945)6月鎌倉にて逝去。

・善の研究

- ・最も重要な概念は純粹経験であり、知・情・意一体の純粹経験に基づく全人格的思考が求められる。
- ・西洋近代哲学の主客対立の二元的思考法の限界を純粹経験説によって乗り越えた。
- ・西田哲学は、心霊上の事実に基づいて有限と無限、相対と絶対、時間と永遠、時間と場所、絶対矛盾的自立同一もしくは逆対応と規定したことである。
- ・それぞれの事象、現象を捉えるには、人間の意識が極めて重要である。同じ物を見ても見る者の経験や知識が違ふ、主観に強い・弱い、客観に強い・弱い、主観がある為に違いが起こる。これは各々にしかわからない人間が感覚を通して得た情報に超合成を持たせようとしているからで、この意識の統覚作用が自己であり意志なのである。例えば、死の場合自己と意志は失われるが、そこには何か重大な意味がなければならぬ。科学には原因と結果があるようにすべての物事には因果がある。それを偶然と想うのは、意識せず無知だからである。西田は意識現象を実在と考える。
- ・個々の純粹経験とその根底にある。統一力を現象と本体の関係として経験的自己(主観)と普遍的自己(主観)として捉える。考え方は善の研究に一貫した思考方法である。
- ・意識的行為、行為的意識…行為的直観の基礎 行為的直観は意識の行為志向性と行為の意識喚気性の2つから成り立つもので現実の世界、その場に身を置いて初めて生まれる経営の意思決定はこの志向性と喚気性の交錯の中にあり、そこに行為的直観がゆく行為の真実を求めようとする意思決定は、行為的直観によって自らを弁証法的世界(正・反・合)と一体化しようとするその直感は同一異方向の意識との交互作用である。
- ・自己否定・行為的直観の自覚  
行為的に直観することは我々が自己矛盾的に物を見ることである。自己矛盾的に物を見ることは、行為的に直観することである。現実には絶対の矛盾であるが故に現実である。自分自身を否定することなくしてそれを否定することはできない。行為的直観は自己を肯定して対象と対立している者にはあらわれない。
- ・西田が「物となって見る、物となって行う…」(王陽明の開眼時と類似)とか「物来たって我を照らす」などと言うのはこのことを指すのである。したがって行為的直観は自分が動かされる立場においてのみゆくと云える。

(例)芭蕉

閑かさや 岩にしみいる 蟬の声

山中の環境と一体化し更に蟬の声でより一体化した「岩にしみいる」が行為的直観である。蟬の声も岩も主客を意識した構図の中にあるのではなく、主も客も刹那の純

粹経験(善の研究)と通じている。物になり切った行為的直観は、思惟や分別を超えたものなのである。

・用と体(はたらきのもの)

理は体であり、万物はその用である。理は仰いでいるもので単なる観念的な原理ではない。そのような理は活動の足跡であって理そのものではなく理はあくまでも創造的なもので意識の対象として見るができないものである。理は主体的なもので対象比できない。観察や思考の対象でなく行為や実践の中で触れ、体得されるものとして考えられている。つまり理は単に知の対象ではなく、むしろ行の目的である。と西田は言う。

(注)ここでいう理は一般的に考えられている万物を支配してる静的な原理あるいは、それに従って動いている普遍的な原理のようなものではなく物の世界と心の世界の統一力であり、万物を生誕させる動的な原理として考えられている。

・経営するから経営体、経営体だから経営するということになるが、経営体は経営に先行して存在しているのではない。経営体が存在しているから経営しているのである。用(はたらき)と体(もと)を分断することはできず一体である。両者を分断することは、主観、客観、主体、客体という。思考形式を現実には先行させることを意味する。用は西田のいう純粹経験のように主客の別れる前の一体のものであり行為的自己に他ならない。

★鈴木大拙(西田幾多郎と四高からの親友)

- ・日本的靈性は戦時中の日本精神、国家神道に対する批判から生まれたものであり、大拙は「日本的靈性に通じるものが、哲学に現れたものが、西田哲学である。」と述べている。
- ・靈性とは宗教意識による実在的なものであり、日本文化の特徴として日本精神史の統合原理である。キリスト教では聖靈という。
- ・日本的靈性が情の面で現れたものが浄土系思想であり、知の面で現れたものが禪である。
- ・仏教の根本義として知恵の面が信の宗教、慈悲の面が覚の宗教であり、親鸞による大地の思想を大地性という。

※内村鑑三、夏目漱石、西田幾多郎は西洋事情の精通者であるにもかかわらず文明開化の奥底に何か欠けているものを察し取り日本人の真実、考え方、唯一の生き方を提示したのである。

・したがって実践の立場からすれば経営の内側からの自覚として見る視野がなければ、机上の空論に過ぎない。西田哲学はそこを照らす実践哲学なのである。

※東洋思想は無意識ならぬ意識・多意識とでもいうべきものを体験的事実として認める。それが東洋哲学一般の根本の一つの特徴である。

(井筒俊彦 意識と本質より)

### ★ドラッカー

・マネジメントとは人と組織を成長させる哲学である。

・ドラッカーは「マネジメントとは何か？」についてその定義・目的を七つ挙げている。

1. 人間に関わるもので優れて人間的なものである。
2. 人と人の関係に関わるもので国や文化と深い関連性を持つものである。
3. 組織のメンバーに仕事に共通する価値観と目標を持たせる役割がある。
4. 組織とそこに所属するメンバーを成長させるもの。その為に教育訓練を行う必要がある。
5. 組織に所属するメンバー間の意思疎通、責任を促すものである。
6. 数字だけでなく組織活動に関わる多様で総合的な評価基準を持つものである。
7. 顧客満足という最大・最終の目的を持つものである。

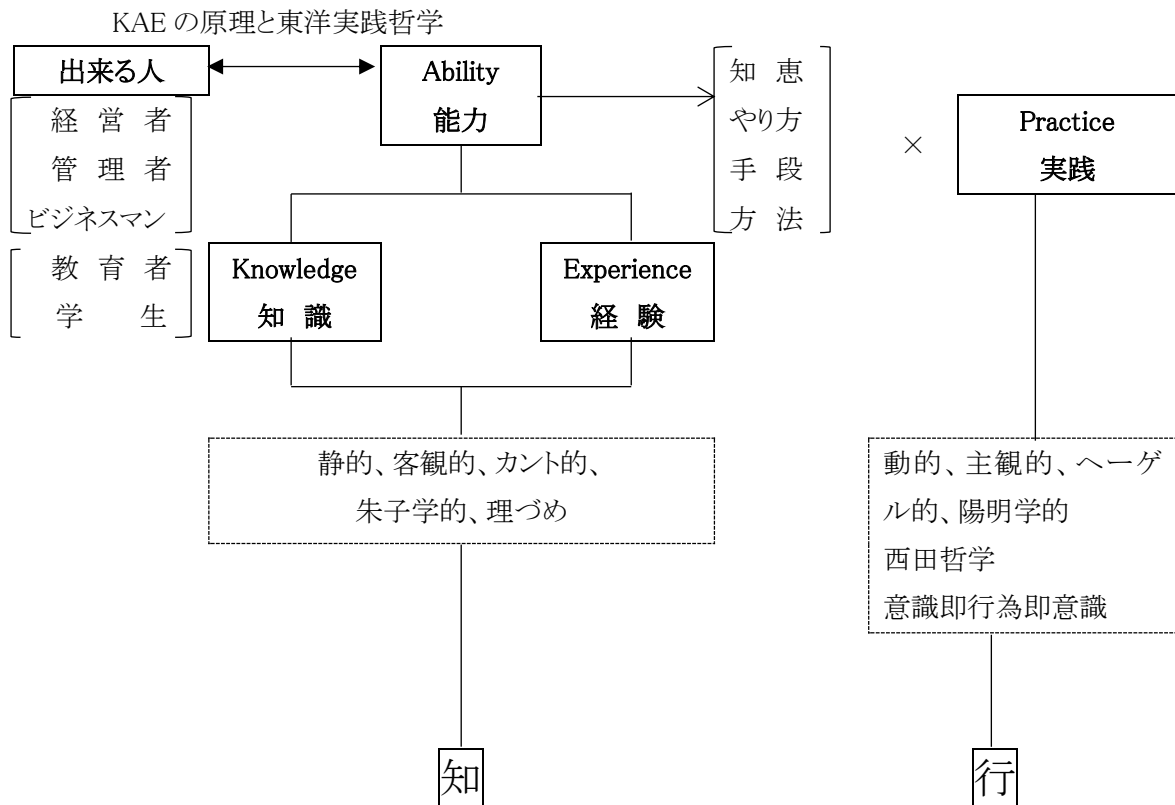
※1～2…人間のマネジメント

3～5…組織と人に関わるマネジメント

6～7…組織と人の評価・成果に関わるマネジメント

・ドラッカーはマネジメントを経営やビジネスの場に於ける管理法といった狭義な意味合いから人の成果や幸福に関する人文科学的な学問として広義に捉えている。したがって人に対する深い洞察力、広い知識、教養がなければ確実なマネジメントを行うのは不可能でしょう。という。それは、人間の心を扱う人間の本質にも触れる「人間学」であると述べている。

6. 実学一体の実践経営学(一橋大学、故山城章教授)



★まとめ

【疑問点】

- 山城先生は何故、KAE-Pの原理としなかったのか？

(例) 家庭教師と教え子……………勉強のできる子

(例) Possibility と Fusibility……………成果をあげる人

(例) 帰納と演繹……………研究者の思考